

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+1	+1	+2	令和8年度の目標	+1	+1	+1	+1	+5	+5	+2	+5
令和7年度の結果	0	-0.5	-0.5	令和7年度の結果	-3.1	-6.9	+3.3	+7.3	-0.3	+9.4	+0.8	+6.2
令和6年度の結果	-2	-4	-6	令和6年度の結果	-0.3	-1.1	-4.7	-6.4	+1	-3.1	-3.3	-1.9
令和5年度の結果	-11	-9	-20	令和5年度の結果								
年度	令和7年度			令和8年度								
内容	成果と課題			目標			目標達成に向けた取組					
学校全体	【成果】4年目となる国語の授業研究、よむYOMUワークシートの取り組み、ドリルパークや学習カルテ等の自主学習としての取り組み、算数での習熟度に応じた授業等を通して、どの学年も、着実に、力を伸ばすことができている。 【課題】全国学力・学習状況調査においては、年々、東京都の平均正答率との差が縮まってきているが、江戸川区学力調査の平均正答率は、学年によって、結果にばらつきがあり、学年を超えた学校としての系統立った取り組みが必要である。			・国語では、文学的文章における授業研究を通して、「すすんで言葉に着目し、豊かな言葉で考えを表現する児童の育成」を目指す。 ・国語、算数ともに、①基礎学力を高めること、②考えを表現する力を高めることを、すべての学年で目指す。			・国語における授業研究を通して、低学年から高学年まで系統立てた取り組みを実施する。 ・国語、算数において、授業スタンダードに基づいた授業を実践する。 ・基礎学力を高めるために、今まで以上に、よむYOMUワークシートの取り組み、ドリルパーク、学習カルテの活用、EDOスク指導者との連携を図っていく。 ・考えを表現する力を高めるために、国語、算数ともに、結果や答えだけでなく式や図などを使って自分の考えを表したり、学習のまとめや学習感想など自分の考えを言葉で表現したりすることを習慣化していく。					
第1学年	算数では、たし算、ひき算などの基本的な計算はできている。時計の「なんじなんぶん」の読み方についての理解は、不十分である。 国語では、ひらがなや、カタカナ、漢字などの書き取りは、よくできている。「よむこと」では、場面の様子や、登場人物の行動を読み取れるようになってきた。自分の考えや意見を説明する力が不十分である。			・国語では、文章から分かることを読み取り、自分の考えや意見を言語化できるようにする。 ・算数では、基礎的、基本的な計算を確実に身に付けさせる。 時計の「なんじなんぶん」の読み方を定着させる。			・国語では、物語文の学習において、場面の様子を具体的に理解できる発問を工夫する。ノートやワークシートに、自分の意見や考えを書く取り組みを増やし、説明する機会を多く取り入れる。 ・算数では、学習内容の定着度合いを学期ごとに確かめ、年度末には、全員が正しく理解できるようにする。単元で取り組むだけでなく、年間を通して、スパイラルで指導していく。					
第2学年	国語では、習った漢字やカタカナを使って、文章を書くことができるようになってきた。身近なことや経験したことの感想や考えをもったり、話したりすることができる児童が多い。 一方で、算数、国語ともに、問題文をよく読んで、重要な語や文を考えて解答することに課題がある。			・国語では、文を自分で読み取ることができるようにする。自分の考えや意見を言語化できるようにする。 ・算数では、問題文をよく読んで、絵、図、表などを使って、自分の考えを表し、解答できるようにする。			・国語では、ノートに自分の意見や考えを書く取り組みを増やし、説明する機会を多く取り入れ、習慣化させる。 ・算数では、文章題や絵、表を読み取る際に、正しいメモや書き込みをさせることで、見落としや見間違いがないようにする。					
第3学年	算数では、特に、「たし算」「ひき算」「かけ算」「わり算」において、全国平均を下回る児童が多かった。計算力を上げるために、ドリルパークなど、計算学習に取り組むようにした。 国語では、漢字の読みや書き、適切な言葉を選んで書くことが不十分であった。漢字や言語の学習でも、様々な問題に取り組ませるようにした。			・国語では、筆者の思いや願いが書かれている文を見付けて内容をまとめたり、登場人物の気持ちの変化を表す言葉や表現を見付けて気持ちを読み取ったりすることができるようにする。 ・算数では、問題文をよく読んで解答できるようにする。			・国語では、文末表現や気持ちを表す言葉などの学習した知識と情報を活用できるように掲示物を作成し、読み取る際の手がかりをいつでも確認できるようにする。 ・算数では、文章題や絵、表を読み取る際に、正しいメモや書き込みをさせることで、見落としや見間違いがないようにする。					
第4学年	国語では、比較的どの領域においても、全国平均と同等、または、上回っていた。漢字の読み書き、文学的文章の読解に、より力を入れていく。 算数では、全国平均と比べると、どの領域も上回ることもできた。「分数」「重さ」「式による表現」により力を入れ、理解を確実にしていく。			・国語では、問題文をよく読んで、自分の意見を記述することができるようにする。自分の考えを言葉で説明することができるようにする。 ・算数では、平均正答率を全国と並べられることを目指す。継続的に「たし算」「ひき算」「かけ算」「わり算」のドリル学習に取り組ませ、個別に対応し、計算力を上げる。			・国語では、読解力を付けるために、登場人物の心情を記述したり、段落毎の内容を短い文でまとめたりする取り組みを増やす。よむYOMUワークシートでは、専用のノートを活用し、自分の考えや調べたことを書き込む活動を繰り返し行う。 ・算数では、計算問題に多く取り組ませ、基礎基本の定着を図る。自分の考えを、図や式や言葉を使ってノートに書き、伝える取り組みを増やす。EDOスクでは、担任からの希望をこまめに担当に連絡し、担当から指導者に伝え、個に応じた指導を工夫して行う。					
第5学年	算数では、習熟度別のクラス分けを学年全体で行い、個に応じた指導を徹底したことで、学力向上に繋がった。基礎を固めたことで、CD層の学力向上が見られたが、応用問題の正答数の伸びが良くなかった。 国語では、授業だけでなく、よむYOMUワークシートの活動を丁寧に言い、書くことへの抵抗感が少なくなったことで、「書くこと」の回答率が上昇した。しかし、熟語やつなぎ言葉など、言葉の知識力が低いことが分かった。			・国語では、熟語や、つなぎ言葉など、語彙を増やす。 ・算数では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。個に応じた指導を徹底する。			・国語では、学習で獲得した言葉や日常で見付けた言葉などを「言葉コレクション」として、ワークシートに貯めていく。よむYOMUワークシートでは、専用ノートを活用し、自分で調べたことや要約など、自分で選んだ内容を書き込む活動を繰り返し行う。 ・算数では、D層の底上げ、B,C層の力を上げられるように、ドリルパーク等も活用して、多くの問題に取り組ませる。EDOスクでは、担任からの希望をこまめに担当に連絡し、担当から指導者に伝え、個に応じた指導を工夫して行う。					
第6学年	国語では、100マス作文、1年生から6年生までの漢字、よむYOMUワークシートなど、書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗感をなくすようにした。しかし、説明文での、問いに対する答えを読み取る力が弱い。 算数では、学習カルテを活用し、基礎基本の定着を図った。その結果、国語は、+0.8ポイント、算数は、+6.2ポイント、全国平均を上回った。			・国語では、平均正答率の全国との差がプラスになるようにする。語彙を増やし、自分の考えや意見を、適切な言葉で表現できるようにする。 ・算数では、昨年度伸ばした正答率を落とさず、現状維持を目指す。自分の考えを、図や言葉、式で表し、説明できるようにする。			・国語では、読むことの学習を中心に言葉に着目する活動を行い、できた姿を価値付けすることで、言葉に対する興味関心を広げ、語彙の定着を図る。よむYOMUワークシートでは、専用ノートを活用し、要約や自分の考えを書き込む活動を繰り返し行う。 ・算数では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。更に子供たちの学び合いを通して、分からない所をそのままにせず、解決しようとする意識を育てる。EDOスクでは、学年全体で、下位18人を選出する。担任が入り、指導者と共に、個別指導を行う。					